

プロの占い師に直撃取材! パースで占うあなたの運勢



# タロット占いを 現場取材!

タロット占いのイメージがつきにくい?! そんなあなたのために、ここではカリッサさんの占いの様子を紹介します!



**1** ここでタロット占いが行われる。紫色をベースとした壁やインテリア、お香の匂いやろうソクの火はまさに占い部屋。日常ではなかなかない雰囲気だけど、気持ちはリラックス。



**2** お客様に占いごとを考えてもらいながら、全てのカードを切ってもらい。切ったカードはランダムに3つの山に分けられ、それをまた1つに戻す。



**3** ここからがカリッサさんの出番。一枚ずつ慎重にカードを開き、テーブルの上に置いてゆく...



**4** 目を閉じて、テーブルに置かれたカードの上に手をかざす。カードに込められたエネルギーを感じているよう。それから、お客様の現在の状態など一般的なことからゆっくりと語り出した。



**6** 約1時間後に終了。張り詰めた空気が一気に緩む。疲れた表情のカリッサさんだけ、お客様の表情が明るくなると笑顔に。カリッサさん、今日はありがとうございました!



**5** 途中で質問を聞きながら新しくカードをさらに開いて、少しずつ問題の真相に迫ってゆく。



これはカリッサさんがよく使うという、「ダイヤモンド」と呼ばれる展開法。複雑すぎず、お客様にも内容が伝わりやすいとか。

## タロット豆知識② マルセイユ版とウェイト版

代表的なタロットの種類には、「マルセイユ版」と「ウェイト版」と呼ばれるものがある。「マルセイユ版」は、16世紀～18世紀頃のヨーロッパで木版製造されていた伝統的なカード。この「マルセイユ版」を元に、100年ほど前に英国のアーサー・エドワード・ウェイトが作ったのが、「ウェイト版」である。彼は、大アルカナと呼ばれる22枚のカードの絵柄に、所属していた魔術結社の「黄金の夜明け団」の秘儀を盛り込み、また今まで数枚であった小アルカナにも人物像を割り当てることで、躍動感のある56枚のカードを作り出した。同時に、8番「正義」と11番「力」のカードが入れ替えられているのも「マルセイユ版」との違い。現在、英国、米国や日本で広く知られているのはこの「ウェイト版」で、これを元にした、様々なバリエーションのものも発売されている。

## タロット豆知識③ タロット占いと占星術

タロット占いと占星術は全く違うもののように思えるが、タロットでは絵柄、占星術ではチャートにある惑星や星座のサインがそれぞれを象徴しており、占い師によって特定の意味を導くことができるという共通点がある。そのため、タロットを占星術に使用する占いの方法もある。例えば、タロットの「魔術師」は「水星」、「女帝」は「金星」、「皇帝」は「白羊宮(牡羊座)」を意味するといわれる。占星術では、相談者は占星術師の言葉から目に見えない宇宙などを想像しながら理解しなければいけなかったため、容易ではなかった。しかし、タロットを同時に使うことによってイメージがしやすくなり、より分かりやすくなったと言われる。また、タロットを使いながら自分の占いの正確性などが確認できるため、占星術師にとっても精神的な負担が軽減した。